

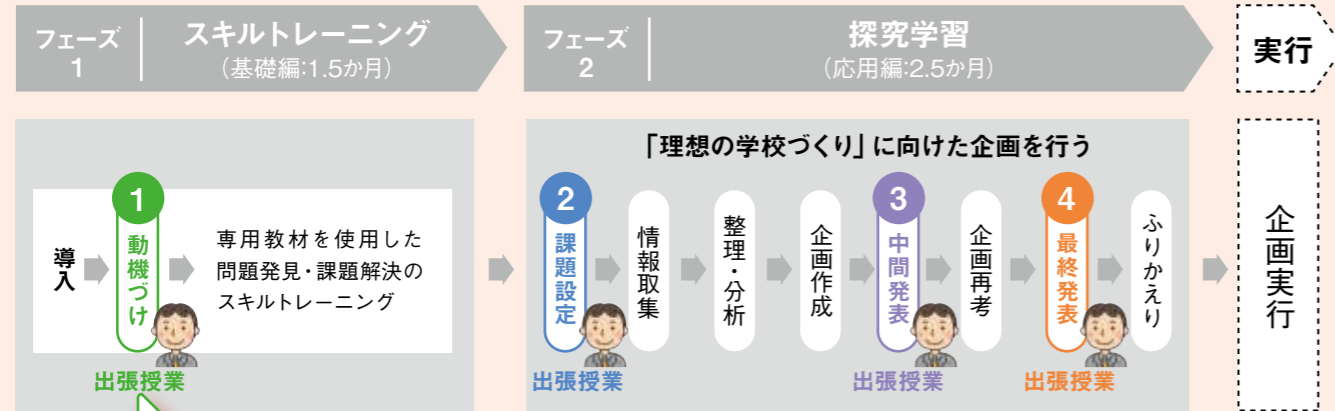
日立みらいイノベータープログラム

20年度 出張授業がスタートしました!

日立財団は、これからの理工系人材に求められる問題発見力や、課題解決力を育成するために、小学校5年生を対象としたプロジェクト型探求プログラムを開発しました。2016年より、日立グループ各社と連携し、出張授業を、実施しています。

本プログラムは、フェーズ1の、スキルトレーニングと、フェーズ2の探求学習を通じて児童が「7つのKeyスキル」を発揮し問題発見力と課題解決力を身につけ「未来をイノベートする力」を育成します。

児童は「理想の学校づくり」をテーマに、自ら設定した学校の課題をグループで協働しながら解決策を考え、日立グループ社員は、企業講師として授業に参加し、日立グループの社会イノベーション事例をもとに、イノベーションの重要性や問題発見・課題解決の方法や考え方を伝えます。また、児童のアイデアに対してアドバイスしながら、児童の学びをサポートします。



【第1回出張授業】



① 日立の課題解決例をもとに、「問題発見・課題解決のプロセス」について児童たちに説明します。



② 続いて、水に沈む食器／沈まない食器について実験を行いました。事前に仮説を立て、どのような結果になるか確かめました。



③ 沈む食器と沈まない食器は何が違うのかをチームで考え、発表しました。

【今年度実施校】

・埼玉県戸田市立喜沢小学校 ・埼玉県熊谷市立大幡小学校 ・茨城県かすみがうら市立下稲吉小学校 ・茨城県日立市立成沢小学校

NewsLetter

Vol.37 / 2020.9

日立財団では、財団の活動情報を集めたニュースレターを発行しています。シンポジウム、セミナー、表彰式などの活動報告や、最新のトピックスなど、日立財団に関するさまざまなニュースをお届けいたします。ぜひご覧ください!

人づくり

理工系女子応援プロジェクト

パイオニアトーク Vol.5 を公開しました



理工系女子応援プロジェクトは、女子中・高生の理工系分野への進路選択を応援することを目的とした啓発活動です。プロジェクトのウェブサイト「わたしのあした」からの情報発信と、ウェブと連動したイベントの開催を行っており、日立財団はこの活動を通して、理工系女子の育成、人材の多様性とそれによるイノベーションの促進に貢献しています。

パイオニアトーク

理工系の最先端で活躍する女性技術者、研究者をゲストにむかえ、進路選択の体験談や日々の仕事の楽しさ、ライフスタイルなどについてお話いただく連載コーナー。

体験イベント

来訪者により具体的なイメージを描いていただけるよう、パイオニアトークと連動した体験型イベントの情報、開催レポートを掲載しています。

※2020年度の体験イベントは、新型コロナウイルスの感染が拡大している状況を鑑み、中止いたしました。

プロジェクトサイト「わたしのあした」

<https://www.hitachi-zaidan.org/my-tomorrow/index.html>

パイオニアトーク Vol.5

～都市デザインは「人」を中心とした調和と統一のデザイン。街づくりの魅力を多くの人に伝えたい～

ゲスト: 横浜市都市デザイン室長 梶山祐美さん
聞き手: 荒木 由季子(株式会社日立製作所 理事)

建物のデザインや設計といえば、皆さんなんとなくイメージできると思いますが、都市デザインの仕事と聞くとどうでしょうか? 都市をデザインする仕事、そこには新旧の歴史が織成す景観のほか、民間と行政の連携や、開発・建築・税などの法制が複雑に絡むなかで、人が暮らしやすい快適で美しい街をつくるための、いろいろな工夫が込められています。

大学での学びを活かして横浜市の都市デザインで活躍されている梶山さんに、どのようにして都市デザインに興味をもち、このお仕事についたか、ご自身の経験談や街づくりの魅力についてお聞きしました。

■都市デザインってどんな仕事ですか?

人を中心とした調和と統一のデザインです。道路や公園、公共的な空間をいかに快適に過ごせる空間にするか、「造る」だけでなく「使う」ためのデザインですね。

■進路選択のきっかけは?

英語が苦手だったので理系を選択し、興味を持っていた建築学科



へ進んだのですが、大学の課題で訪れた表参道の並木道の街並みに衝撃を受け、その時に自分は建築単体より街づくりをやりたいのだと気づきました。

■仕事・子育て・生活について

両立は大変ですが、完璧をめざさないで、まあいいじゃないっていう気持ちで行くとなんとかなっちゃいます。仕事は、若いときは自分がやることに充実感を覚えると思うんですけど、上に上がっていくと、組織でこういうことができたという喜び方によって変わってきます。組織でできることって、すごく達成感があるので、上に上がっていく楽しみはあるのかなと感じています。

■これから進路選択をする皆さんへのメッセージ

見て感じる、その感性が一番自分に刺激が強く残るものだと思いますので、学生時代に色々なところへ行ってほしい。学生のときの時間と、9時から5時は最低働かなければいけない社会人とは、圧倒的に持っている時間が違います。その時間を有効に活用して、いろんな経験をしてもらいたいと思います。

※インタビューの全編はウェブサイト「わたしのあした」でご覧ください。

学術・科学技術の振興

倉田奨励金

第49集 倉田奨励金研究報告書をウェブサイト公開

日立財団では、研究助成「倉田奨励金」によって行われた研究の成果報告を広く一般の方に知っていただくため、「倉田奨励金研究報告書」を年1回発行し、公表しています。

今年度発行の第49集は、主に2017年度(第49回)倉田奨励金を受領された方の研究テーマから、25の成果報告を掲載しています。

詳しくは財団ウェブサイトの「第49集 倉田奨励金研究報告書」をご覧ください。

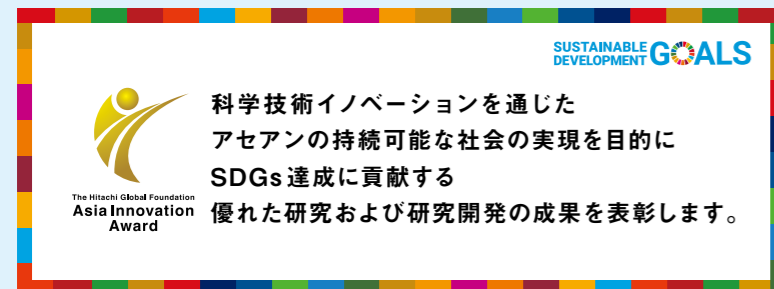
なお、本報告書は12月に冊子版も発行いたしますので、ご希望の方は事務局までご連絡ください。



<https://www.hitachi-zaidan.org/my-tomorrow/index.html>

日立財団アジアイノベーションアワード

初年度の選考を開始しました!

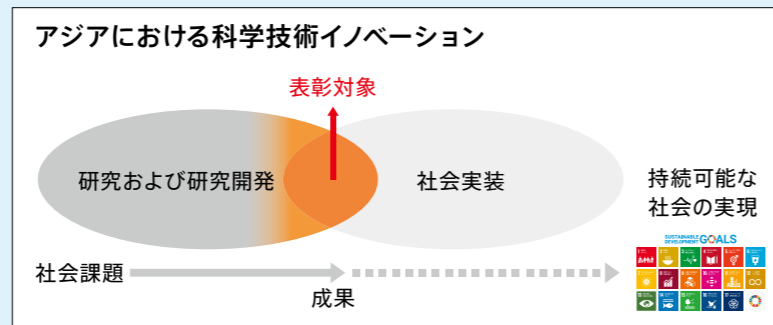


	最優秀賞	300万円/件 (最大2件)
	優秀賞	100万円/件 (最大10件)
	奨励賞	50万円程度/件 (最大10件)

日立財団は、1984年より日立スカラーシップ事業(博士課程留学支援、研究者招聘等)を通じ、東南アジアの科学技術人材の育成に貢献してきました。しかし、近年のアセアン諸国の経済発展および科学技術の水準の向上を踏まえ、2020年度をもって従来の招聘型支援を終え、新たに、アセアン地域の社会課題解決と持続可能な社会実現に資する科学技術イノベーションを促進する「日立財団アジアイノベーションアワード」を開始しました。

■表彰対象

持続可能な開発目標(SDGs)への貢献を目的として、あるべき社会像を描き、科学技術の社会実装を計画に入れた優れた研究および研究開発において、画期的な成果をあげ、明らかに公益に供したと思われる個人またはグループを表彰します。

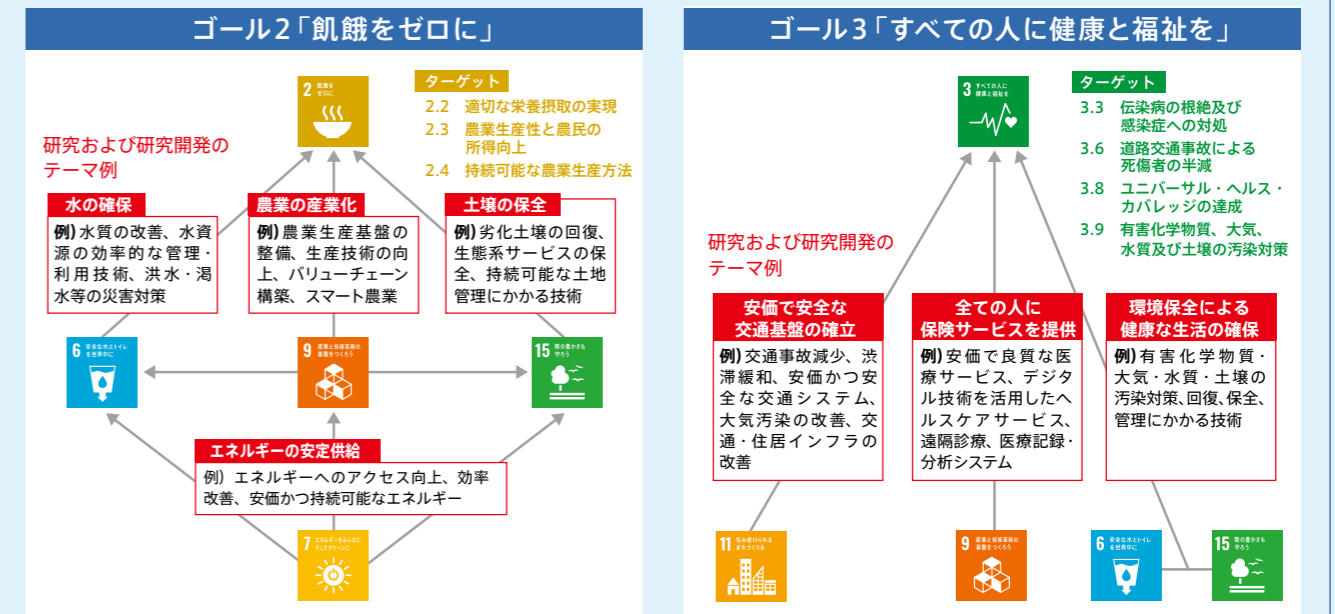


■募集内容

SDGsの17ゴールと169ターゲットのうち、毎年2つのゴールといくつかのターゲットを選定し、これらに貢献する研究および研究開発の成果を募集します。また、自国やアセアンのあるべき社会像を描いた、成果の社会実装計画も提出いただきます。

[2020年度の募集内容]

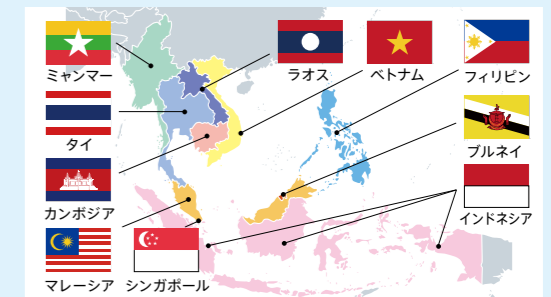
2020年度は、2019年度時点における各国のSDGs達成状況を鑑み、アセアンの中で未達成の国が多かった、ゴール2「飢餓をゼロに」(ターゲット2.2 適切な栄養摂取の実現、2.3 農業生産性と農民の所得向上、2.4 持続可能な農業生産方法)とゴール3「すべての人に健康と福祉を」(ターゲット3.3 伝染病の根絶および感染症への対処、3.6 道路交通事故による死傷者の半減、3.8 ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの達成、3.9 有害化学物質、大気、水質および土壌の汚染対策)に貢献する研究および研究開発の成果を募集しました。



■応募対象

募集内容に合わせて、毎年、アセアン10か国の中から、対象国、対象大学および研究機関を選定し、各大学および研究機関より応募者を推薦いただきます。

応募者は、個人またはグループで、対象大学または研究機関に所属する研究者、教員、学生です。



[2020年度の応募対象]

2020年度は、ゴール2とゴール3の課題が多く残る、インドネシア、フィリピン、ベトナム、カンボジア、ラオス、ミャンマーの6か国を選定し、これらの国において、ゴール2とゴール3の研究分野で、国を代表する18の大学および研究機関を対象としました。

■応募書類

1. 申請書
(研究および研究開発の紹介ビデオを含む)
2. 推薦書
3. 成果の証明(論文、特許など)

■選考基準

- (1) あるべき社会像と研究および研究開発の関連性
- (2) SDGsのゴールへの貢献度
- (3) 包摂性
- (4) 科学技術の活用
- (5) 革新性
- (6) 社会実装計画の実現性
- (7) 社会実装計画の継続性、発展性

■スケジュール

